

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200290		
法人名	有限会社 風のふく丘		
事業所名	グループホーム 風のふく丘 三ヶ敷		
所在地	佐賀県三養基郡基山町大字園部字三ヶ敷413番地2		
自己評価作成日	平成22年10月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年11月8日	外部評価確定日	平成22年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開設5年。 家庭的な雰囲気の中で、利用者の方々一人ひとりの思いを理解しながら、毎日のサービスの提供を行っています。 利用者の方の笑顔が素敵です。 利用者の方の笑顔を引き出せるように、職員も元気に笑顔で明るく接することを心掛けています。 花を飾ったり、季節感のあるものや珍しいものなど持って来ては、色々な話をしながら利用者の方と一緒に楽しく過ごしています。 最近では、以前入所されていた方のご親戚や地域包括、病院、個人など、空き情報の問い合わせが増えてきました。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>基山町の南西に位置し、ホームの敷地内の竹林の南隣接先は鳥栖市の新興住宅地である。大きな民家の改造型グループホームで、まるで我が家そのものの佇まいで、心安らぐ雰囲気である。中庭にはつつじやもみじや梅の樹等が植えてあり、各入居者の部屋から季節を感じる事が出来る。職員の配置を手厚くして入居者の安心・安全を図り、人格を尊重した支援に取り組んでいる。また、介護する人・介護される人の負担軽減を図る為、移動型電動リフトを使用している。排泄の支援においては、入居者の排泄パターンを把握し、紙おむつや紙パンツ使用から布パンツ着用への支援を積極的に取り組んでいる。食事を楽しむ為に、職員は介助しながら同一食事を摂り、笑い声一杯のホームである。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の方いつも笑顔であいさつ」を理念に掲げ、職員は共有し、家族や地域の方に実践している。	「地域の方いつも笑顔であいさつ」の理念を朝礼時に毎日唱和する事で共有し、通勤途中や散歩中に実行しているほか、日常業務においても実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、おくんちなど地域の行事に参加したり、散歩時に挨拶や言葉を交わすことで、顔なじみになっている。地域の方(老人クラブ・子供会)も、事業所の行事に多くの参加を得られている。駐車場も地域の方に開放している。	地域の人達とは、散歩の時等に挨拶や言葉を交わし、顔馴染みになっている。また、町主催の敬老会や園部地区毛槍おくんちの行事に職員共々参加をしている。季節毎に実施しているホームの行事には、老人クラブ・子供クラブ・地域の人達の多数の参加で、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独り暮らしの方への声かけ支援。 運営推進会議時など、介護士や看護師により支援方法の報告をするとともに、地域の方から、困りごとや認知症についての質問があれば答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。利用者の健康状態、サービス・行事などの報告を行い、参加者側からも意見や質問を受け、話し合いながらサービスの向上に活かすよう努めている。家族の要望は取り入れ、その結果を次回の会議時に報告している。	運営推進会議の日程を奇数月の第4日曜日と定め町・包括支援センター・区長・民生委員・老人クラブ会長・利用者家族等に行事・評価の取り組み等の報告を行い、委員や家族からの意見や質問を受けサービスの向上に活かすよう努めている。欠席の家族には結果を知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、事業所の実情やサービス(行事など)の取り組みを伝え、地域の方や行政からも地域行事の情報を頂いたり、大雨の際は、被害がないかなどの連絡を頂いたり、関係を築いてきている。	運営推進会議には日曜日にも係わらず町担当者の出席もあり、ホームの実情を観察してもらっている。また、事業所からも積極的に出向き、情報の提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを見直し再確認している。又、本人の行動や仕草を十分に観察することで安全な生活が出来るように配慮している。屋間玄関は施錠しておらず、自由に出入り出来る状態である。	代表者及び職員は身体拘束の弊害を理解しており、入居者の安全に配慮しながら自由な暮らしの支援に取り組んでいる。屋間は玄関の施錠はされておらず、職員の見守り・気配りによる見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり、職員同士で実際の対応や介護方法の見直しなど、意見交換を行っている。又、業務の工夫や、親睦会を設け、職員の肉体的・精神的ストレスの軽減を図り、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルや研修報告などに目を通したりしている。現在は必要性を要する方はおられないが、以前は関係者と話し合い支援したこともある。時々職場内研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を提示しながら、利用者や家族に不安がないように十分な説明を行い、理解・納得して頂いている。又、署名・捺印を頂き、家族側へも控えを渡し、自宅でもう一度確認していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会・面会時に何でも言えるような雰囲気づくりに努めている。実際に出た意見・要望等は運営に反映するよう努めている。苦情は受付窓口のポスター掲示や、意見箱の設置を行っている。	利用者の全家族は、隔月毎に開催される運営推進会議に出席して意見・要望を代表者や職員並びに外部者へ表せる機会があり、代表者はそれらを運営に反映させている。また、職員は面会時や家族会・行事の折には積極的に声かけをして気軽に話せる雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の朝礼時や会議において、意見や提案を聞くようにしているし、ひやりはつとや気づきについて、改善に向けた取り組みを話し合いながら実践に結びつけている。	代表者や管理者は、普段から職員との意思の疎通を心がけ、声かけをしている。毎月の会議や朝礼時において運営に関する意見や提案・気づき等を聞く機会を設け、改善に向けた取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休みがなるべく取れるようにしたり、段階に応じた研修への参加を促し、やりがいを持って働けるように配慮している。又、資格取得者へは給料にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自分で参加を希望する研修や、病院院内研修、実践者研修、職場内研修など、多くの職員が出来るだけ参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やボランティア活動を通じ、他施設への訪問や交流を図り、困っている点や、工夫している点を見たり聞いたりしたことを自分の施設でも反映できないかと改善に向けて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に以前の生活等の情報を家族より聞き取りするにしている。実際に一緒に生活しながら、本人の行動や仕草、つぶやき、表情などから本人の思いの理解やお互いの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯、不安や要望など家族の思いを十分に受け止め、家族が納得いくよう話し合いながら、家族の意向もプランに取り組み、支援していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望はできるだけ聞き入れ、まず、本人が馴染めるように配慮している。在宅でも生活できそうであれば、在宅サービス・地域サービスの説明や紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	シーツ交換・食器洗い・洗濯物たたみ等、できる範囲で職員と一緒にしている。又、お互いにいつも感謝のことばを忘れずに、助け合って生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事への参加の呼びかけを行い、交流の場を設け、話す機会を作っている。又、面会時は、日頃の生活風景やサービス方法を見てもらいながら、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ、今までのかかりつけ病院に受診。馴染みの人を家族が連れてこられ、面会があった。又、本人より、若い頃の馴染みの人・場所・生活などの話を時々聞きながら、支援に努めている。	面会の時に家族が馴染みの方をご一緒して下さったり、お盆やお正月をホームで迎えるよう出向いて来られる。介護職員のOBもよく遊びに来てくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しており、トラブルが起きないように配慮している。又、そばに居ると安心できるという関係をこわさない様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や契約終了しても、今後のことや、再び入所を希望されるなど相談や支援に努めている。 短期入院中は、職員が洗濯物を取りに行ったり食事介助をしたりと、本人と面会しコミュニケーションをとるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何気無い話から色々な話に広げ、本人の思いを引き出している。一人ひとりの表情や行動から察せられる思いや希望の把握に努めている。	日常の会話やつぶやき(独り言)等の言動・様子や表情から本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人や家族から以前の生活や環境などの聞き取りを行っている。これを参考にしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を作成していることで、日々の状態や様子をいつも確認できる。又、残存能力については、日々の経過を申し送り時やカンファレンス時に報告と検討を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向・希望等を確認すると共に、職員間での情報交換や話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向・希望等を確認すると共に職員間での情報交換や話し合いを行い、現状に即した本人本位の介護計画を作成している。計画は毎月確認し、サービスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	精神面や体調(血圧・体温)、排泄状況、食事摂取量など個別に記録し、申し送り時報告しながら職員間で情報を共有している。ひやりはつとを記入することで、気づきや改善に結びつき、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診が必要であれば職員が付き添い病院へ受診。入院中は職員が洗濯物を取りに行き、状況・状態を家族へ随時報告している。家族から申し出があれば車椅子車両の貸し出しもしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会の案内を頂き、職員が引率して参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、出来るだけ以前のかかりつけ医を受診している。又、事業所看護師と医師との情報交換を行いながら信頼関係を十分築いている。	受診は、出来るだけ以前からのかかりつけ医としている。通院時には職員が介助を行っている。事業所の看護師は、それぞれの医療機関との情報交換を密に行い、家族にとっても安心出来る受診体制である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状態を職員間で報告しながら、変化があった場合はすぐに看護師に連絡をとり、必要に応じては職員が病院受診を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人や家族に不安が生じないよう、頻りに面会に行き、状態把握と退院に向けての相談を病院側と行っている。又、日頃より、担当看護師が情報交換し、信頼関係も十分築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りの指針を作成し、入居時に家族へ説明と同意を頂いている。家族へ急変時の対応については話をしている。	重度化した場合や終末期のあり方については、見取りの指針を入居時に本人や家族へ説明し同意を得ている。医療関係者等と連携を図りながら、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各自、見直し確認している。職場内研修で心肺蘇生などの救急法を行ったり、実際にあった今までの急返時の様子や対応を職員同士で情報交換している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施と日頃より、避難の方法などについて話をしている。区長や民生委員の方から地域の協力を得られるように働きかけていただいている。運営推進会議時にも避難訓練を実際に地域の方や家族に体験して頂いた。	年2回昼夜を想定した火災時の消火や避難訓練を地域の方々の協力を得て実施している。運営推進会議時に委員や家族の方にも体験をしてもらい、実践的な訓練をしている。今年度中にスプリンクラーを整備する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は声かけする言葉や語調に配慮している。無理地をせず、さりげない優しい対応を心掛けている。	職員は、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の種類(コーヒーか紅茶かなど)やご飯の量、おやつはどちらがいいかなど希望を聞き、自己決定の機会を設けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や消灯時間は決まっておらず、本人のペースで過ごされている。又、出来るだけ希望に添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好まれる色を把握しており、服やタオルなど準備するようにしている。本人より散髪したいと希望があったり、定期的に声をかけ、その時、床屋の訪問をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや米とぎ、おしぼり丸め、食器洗いなど、できることを一緒にしていただいている。職員も同じ食事を一緒に、食事介助しながら摂っている。	食材の調達を法人で共同購入して、効率よく運営している。管理栄養士の下でバランスの良い食事を提供している。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み同じ食事を摂り笑い声の絶えない至福の時間を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の量は一人ひとり違い、水分が上手に摂れない方は、介助したり容器を工夫するなどして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。夕食後は義歯は洗浄液につけ、保管している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	屋間は全員トイレでの排泄支援をしている。訴えない方は、定時誘導したり失敗時の把握から、その時間前に誘導したりと自立に向けた支援を行っている。又、表情や仕草、咳払いされるなどから随時誘導もを行っている。	屋間は利用者全員トイレ誘導をして排泄の支援をしている。尿意のない利用者には、排泄パターンチェック表を使用して自尊心に配慮しながらトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを食べて頂いたり、食物繊維の多い食物の摂取など、管理栄養士のもと工夫した食事メニューに心掛けている。水分摂取量にも十分注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	いつも決まった順番ではなく、その日の利用者さんの希望やタイミングに合わせている。入浴を拒否される方は、気分転換を試みたり着替えだけ、シャワーだけなど、その時に応じ支援している。	隔日毎の入浴となっているが、利用者の希望や体調等により何時でも入浴可能としている。入浴を拒否される利用者には気分転換を図り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や消灯時間、朝食時間などは決まっていない。本人希望の時間に就寝され、訴えない方は表情や体調を考え、その時々状況に応じた対応をしている。のペースで過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院・医師の指示通り服薬の支援をしており、症状の変化は常に看護師に報告している。個人のファイルに薬の説明書を綴じ、薬の目的、用法、用量などについてはいつでも確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備(米とぎ・野菜の皮むき)や洗濯物干し、取り込み、たたみ、モップがけ、台所の掃除など役割を持ってもらう支援をしている。男性は夕食時晩酌されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	娘さんと月1回デパートへ外出。美容室や親戚の家などに外出。と家族の協力を得ている。春は桜の花見、秋はコスモス見学、など車で出かけたり、庭先でお茶を飲んだり食事したりと戸外にできるように支援をしている。	日常的に庭先や近隣へ散歩をしたり、毎月の行事で花見や外食の計画がある。又、職員が同行している通院の帰路に、希望に応じて買い物に廻ることもある。同一法人のグループホームの交流会も毎年実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	花見や高塚参拝など外出時、たこ焼きを買ったり、お地藏さんにお賽銭をあげたり、道の駅で自分の好きなものを選んでお金を支払ってもらうなど、できる限りの支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、本人がかけたいときは要望に応じている。ひとり一人家族へ年賀状を書いてもらったりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やトイレ、洗面所に花を飾っている。又、敷地内には色々な植物を植え、居室の窓や廊下、縁側から四季折々の花や木々が眺められ、季節感を味わえる。	本家の玄関の先にダイニングキッチンと浴室があり、渡り廊下から離れの居室に面した廊下も広々としてソファを設え、中庭を臨む事が出来て、明るく採光も良く、利用者の憩いの場となり居心地よく過せる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側や廊下にソファや椅子を置いているので、一人でのんびりと寛がれたり、又、家族や職員、利用者同士と庭を眺めながらのんびり一時を過ごせるような支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持込は自由。出来るだけ本人さんが自宅で使用されていた椅子やタンス、枕などなじみのあるものを持ってきていただいている。	フローリングの部屋と和室の部屋があり、全居室ベットを設置している。仏壇や位牌を持参したり、馴染みのタンスや飾り物を置いて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりをつけたり、段差は出来るだけ解消、又は自立つようにテープを貼ったりと工夫している。それぞれの身体機能を活かし、車椅子での自走や手引き歩行、見守り歩行など自立へむけた支援に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 11/11	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない